

富山市総合計画審議会「第1回 都市・環境部会」 議事録

日時：令和3年8月5日（木）10:30～12:00

場所：富山市役所 第3委員会室

出席者：(順不同)

久保田 善明 富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科教授（部会長）
尾畑 納子 富山国際大学名誉教授
足谷 吉彦 婦負森林組合代表理事組合長
梅本 由紀子 富山西交通安全協会 安全運転管理者部会会長
小森 基弘 公募委員
佐伯 邦夫 NPO 法人 富山県防災士会理事長
清水 一夫 富山医療圏メディカルコントロール協議会会長
山森 潔 大山地域自治振興会連合会会長

企画管理部 森次長、岸企画調整課主幹、越村企画調整課主幹、東企画調整課主任
市民生活部 森川市民生活相談課長
環境部 杉谷部長
商工労働部 佐伯観光政策課長
農林水産部 酒井理事
活力都市創造部 中村部長
建設部 舟田部長
上下水道局 山崎局長
消防局 相澤局長

議事内容：

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 部会長職務代理者の指名

部会長から、尾畑納子委員を部会長職務代理者に指名。

4. 第2次富山市総合計画前期基本計画（案）について

資料「第2次富山市総合計画後期基本計画（案）」に基づき事務局から説明。

部会長

- ・ まず「人にやさしい安心・安全なまちづくり」と「コンパクトなまちづくり」の政策について意見をいただきたいので、挙手を願う。

委員

- ・ 今年の冬は大変な豪雪で、都市機能がマヒし、仕事にも買い物にも行けない日々を強いられたためその点の解決策を考える必要がある。また、富山市は「水が豊富」であるが、逆にそのことによる災害が発生しやすいため、水をひとつのテーマとして議論すべきと考える。

部会長

- ・ まず雪については、今年の大雪でグリッドロック（※）現象が起き、特に都心部の人々が車で出かけたが、雪がどんどん降ってきて立ち行かなくなり大渋滞が起きた。雪国ならではのこういった問題について、何か政策の中に取り入れていかなければならない。

※グリッドロック現象・・・想定を超える自動車が殺到して交差点などで渋滞が生じ、渋滞の列が別の交差点の通行を妨げることで次々と渋滞が連鎖していく現象

事務局

- ・ 35年ぶりの大雪で市民も驚くほどであったことと、富山特有の車社会であることが起因したのではと考える。
- ・ P80、81にあるように市ではシステムのことも考えている。富山市では地域主導型除雪を取入れている（制度について説明）が、メリットとしては雪が多い地域、少ない地域などの特性に合わせて除雪ができることがある。今までであればそれで問題なかったが、今回は短時間に大量の雪が降り、地域の代表者も除雪業者も困惑した。こういった経験を踏まえて来年度からは、大雪が予想される際は、地域主導型から行政主導型に切り替えて、市が除雪の采配をとれるようにしていく。
- ・ 幹線道路が大渋滞したため、来年度からは幹線道路を優先し、その後生活道路の除雪にあたることとしている。また市内には消雪道路も多いが今年は大雪のため消雪が間に合わなくなったということもあるため、消雪道路であっても情報が入れれば機械除雪をいれていくことを考えている。

部会長

- ・ 災害が起こった際にどのような対応を行うかといった事後的対応は、どの自治体もそれなりにやる。重要なのは災害が起こった際にどんなことをするのか事前に計画を立てておくこと。事前復興という言葉にあるように事前に災害が起きた際の復興についてシミュレーションしておくこと、つまり復興シミュレーションを計画しておくことが重要である。
- ・ 計画案にはそういったこと（事前復興）が色濃く記載されているようには見えないが、災害はいつでもどこで起きるか分からず、近年は頻繁に起き、激甚化している傾向にあるので、事前復興及び災害後の対応の計画について計画に盛り込んでほしい。
- ・ 災害から復興した後と災害が起きる前とを比較して、復興後の方が良くなっているというビルト・バック・ベターという考えも非常に重要なので、復興後の方がより良くなる社会を目指してほしい。
- ・ 水のことについて何か意見はあるか。

委員

- ・ 流杉浄水場が80%近くの市民の水道を供給しているわけだが、流杉浄水場は常願寺川のそばにあるため、どれほどの災害強度をもっているのか気になる。水害や地震によって被害を受けると80%

近い市民が水を飲めなくなる。

事務局

- ・ 流杉浄水場は日量で15万トンの水を作れる能力があり、1日で10万トン程が出る。
- ・ 平成20年ごろに建設した新浄水場が約10万トンの能力があり、残り5万トン分について施設の改築を考えている。
- ・ 10万トン分（新浄水場）については、耐震機能等を満たしており、地震関係については問題ないと考えている。
- ・ 昨今の洪水等による被害も考えられるため、新しい雨水計画で国の緊急対策に応じて、昨年度に防水壁等の整備をしている。他にも蓄電池の整備等も行っており、約75%分の水（流杉浄水場分）による災害対策については万全を期している。

部会長

- ・ 水の問題も非常に重要であるため、引き続き力を入れて取り組んでいただきたい。
- ・ 最近「グリーンインフラ」というキーワードが重要になっている。これまでのハード中心の「グレイインフラ」だけでなく、自然の作用を用いた防災（グリーンインフラ）も併用して地域全体の防災力を高めていくことが注目されているので、この「グリーンインフラ」に関する記述もどこかに盛り込んでほしい。
- ・ 例えば道路への排水について、地盤への浸透作用等を加味しながら、排水の計画や設備実施を行うとか、屋上緑化または空き地緑化があるが、防災面だけでなく景観や環境面でも有効なので、検討いただきたい。

委員

- ・ SDGsの目標とも絡めて考えられていると思うが、P79については、15番の陸を守る（15番目のゴール＝陸の豊かさを守ろう）に絡めて、森林を整備していくというような視点もあってもよいのかなと思った。

委員

- ・ 山が荒れて境界線が分からなくなっているが、それに関連してクマやイノシシといった被害も出てくる。そういった問題に対して予算の問題もあると思うので、森林組合を利用してもらったら良い。新しい機器類もそろっている。森林組合も日頃から県や市と連携して山の問題にあたらなければならないと思っている。

部会長

- ・ 富山市は森林面積が非常に大きく、これをどのように管理して後世に伝えていくかというのは重要な問題である。森林管理についてはこの後、3つめの政策（潤いと安らぎのあるまちづくり）でも登場するので、また議論してほしい。

委員

- ・ 救急車の到着時間が伸びているが、この時間を縮めるのは交通事情など諸般の事情があるので難しいが、市民病院と消防が隣あっているので、ぜひドクターカーについて予算化を図って早期の導入を考えてほしい。病院に到着するまでの半分の時間で治療に取り掛かることができ、抜本的な改革になる。
- ・ 富山市内には独居の高齢者が非常に多いが、この方々が例えば骨を折ったような際に、ひどければ病院に搬送されるまでに2、3日かかる。この方々が災害時はもちろん、疾病等でご都合が悪くなったときに、早期に医療機関にかかれるシステムの構築が必要である。

事務局

- ・ 現在、現場にドクターを派遣してもらった覚書きを富山大学附属病院と県立中央病院と取り交して運用している。富山市民病院についても、医師を派遣してもらえらる選択肢を増やすために、派遣について投げかけているところである。今は難しいと聞いてはいるが、今後そういった選択肢を増やしていけたらと考える。

部会長

- ・ そういった働きかけをすでにしていただいているとのことであるが、富山市は非常に道路の整備が進んでおり、ドクターカーによる救急の対応についてメリットの出せる土地だと思うので、ぜひ検討いただけたらと思う。
- ・ 独居高齢者の問題についてはどうか。

事務局

- ・ 福祉サイドでの対応が考えられるが、本日の部会には福祉関係の職員が出席していないため、持ち帰らせていただき、第2回の際に改めて報告させていただきたい。

委員

- ・ P78ページ、市民に期待する役割の項目について、危険箇所や避難場所、避難経路等の確認と書かれており、これが市民に期待する役割ということになるかと思う。
- ・ このほどハザードマップをいただいたが、これを市民は活用しているのかなと思う。来たときは立派だなと思っていても、1回見ただけでどこかにしまっていて。ほとんどの人がそうじゃないかと思う。
- ・ 一つの提案として、毎年、梅雨前や台風シーズン前に、市広報等で市民にもう一度チェックしていただけるよう、啓蒙活動をしていただくことで、あの立派なハザードマップの有用性が向上するのではと考える。

部会長

- ・ 啓蒙は非常に重要で、常にこれをしていかなければ意識から遠ざかってしまう。
- ・ 雪の問題についても、雪のシーズン前に、雪がきた際にはどういった行動を取るべきか、自動車では行動しないでくださいとか、そういったことを豪雪が来る前から予測できるので、市民広報等を積極

的に行うことで災害を防止できるのではないかと考える。

- ・ ハザードマップの活用についてもそうだが、そのあたりの広報活動或いは啓蒙活動について、事務局としていかがか。

事務局

- ・ 昨年度、建設部の方からハザードマップを全戸配布したが、富山市民の防災意識については高くないというのが正直なところ。
- ・ 昨年度ハザードマップを配布した際には、説明会も複数行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、予定よりは少ない状況ではあった。
- ・ コロナの状況が好転しかけている際には、大変多くの市民に説明させていただいた。
- ・ DVDを作成し、地区センターや企業の方で積極的に広報して貸出を行い、そしてわからない部分については言ってもらおうという広報もしている。
- ・ 建設部職員が、ラジオ、テレビ、ケーブルテレビ等の市の番組枠を使って、説明をしているところである。
- ・ 全市民には意識がいきわたっていないのが正直なところであるため、引続き、説明会や出前講座を続け、ハザードマップの内容や使い方を理解いただけるよう、努力していきたい。

部会長

- ・ 全市民への啓蒙は難しいところではあるが、チャンネル数を増やして、いろんな機会で市民がそういった情報に接することができる工夫をしていくことが重要である。

委員

- ・ 市民の防災意識が低いという話があり、年間120～130回程度防災講座に出ているが、全く防災意識が低い。ハザードマップはどこかにしまいこんでしまい、ここは何メートルぐらい水がくるのか聞いても答えられる人はほとんどいない。P78の市民に期待する役割として、自主防災組織の組織による防災活動の実施があるが、特に旧富山市内の組織率は低い。
- ・ 自治振興会についても、ほとんど手をつけていない自治振興会や、災害に係る意識の向上や各種イベントが全くないものがある。
- ・ マスコミの方とも話をするが、富山に来て、みんな防災について聞かなすぎると言って驚かれる。なぜかと言えば、地震にしても台風にしてもほとんどこないからだが、そもそも富山県が石川県から分離独立したのも洪水対策をするためだと言ってもいいくらいなのに、そういうことが分かっていない。
- ・ 防災士の資格の取得と書いてあるが、防災士になる時には皆さん結構勉強される。こういった知識を持つ人を各町内に1人ずつくらい配置することで、それぞれの地域で防災士が根付くのでは。石川県では女性防災士は2,500人いるが、富山県は男性含めて1,800人弱。町内会等の役職の方がまず（資格を）取られるが、役職を離れたとたん、防災士の仕事をほとんどしない。女性の救済と若手で意欲のある方のために、県に一般枠を設けてもらったが、資格取得についても、女性の防災士を養成できる仕組みを作っておく必要があるのではないかと考える。そして防災士の資格を取ることで、防災に考えが及ぶ人を各町内に配置できるのではないかと考える。

部会長

- ・ 専門的な知識を持つ方が身近にすることで、地域全体の防災力の向上に役立つと考える。
- ・ 自治会の中に専門知識のある方をといった提案でしたが、或いは各職場にそういったものを求めるのも有効だと考える。
- ・ 具体化していくためには検討事項も多いかもしれないが、先ほどの事前復興、その復興力も高まるので、あらかじめ準備しておくことは非常に重要と思う。

事務局

- ・ 大まかではあるが、年に20程度、防災組織ができており、少しずつ意識が高まってきていると感じており、引き続き防災組織、防災士の資格等について働きかけを行っていききたい。
- ・ 女性の方については、備蓄品に生理用品や液体ミルクを加えるとか、授乳スペースがないのを受けて専用のテントを用意するなど、少しずつ災害時の女性支援に力を入れてきた。
- ・ 女性防災士については、また働きかけを行っていききたい。

部会長

- ・ コンパクトシティ政策についてあまり意見が出ていないが、意見のある方がおられれば伺いたい。

委員

- ・ 富山駅については立派になり買い物も便利になったが、郡部においては高齢化も進み、近くに店もなく、車で30～40分かかる。歩きでは無理。本当に住みよいかとよく議論になる。
- ・ 高齢化も進行しており、独居世帯等の支援になれば民生委員の方にも負担がかかってくるなど、いろんなトラブルが発生している。
- ・ 高山線は一日に3本走る程度（富山駅行と思われる）、富山駅行のバスも1日に3、4本程度であり、本当にコンパクトなまちづくりなのかと不満が出ている。
- ・ 富山駅の方にあまりにもお金をかけすぎているのではないかと思うし、他の地域も見直していただき富山市に住んで良かったとなるようにしていただきたい。

部会長

- ・ コンパクトシティ政策については、中心市街地だけの問題ではなくそこで得られた税収を郊外部にも還元していくというもので市全体のまちづくりに係るものである。とはいえ、郊外部の公共交通問題等、難しい問題も抱えており、藤井市長もその点には言及されており、中心のお団子だけではなく、その周辺のお団子も政策に含まれているので、高山線の問題のようにそういった団子の整備が必要である。
- ・ 公共交通については、近年、全国の自治体のモデルのような存在、トッランナーとして走ってきたわけであり、南北接続も完成したが、今後もトッランナーのポジションを維持してほしい。そのためにも、中心部と郊外部の接続或いは郊外部の公共交通をどのようにしていくか、全国的な模範となる施策を進めていってほしい。
- ・ 技術的にはMaaS等、新しい情報技術を活用した交通ネットワークづくり等が進んできたので、そう

いったものを取り入れながら、先進的な都市モデルを示していただきたい。

〔潤いと安らぎのあるまちづくり〕、〔自然にやさしいまちづくり〕の政策について事務局から説明

部会長

- ・ 潤いと安らぎのあるまちづくりの事業の中に、交通支障箇所改善事業が含まれているが、交通安全の分野について知見をお持ちの委員から、意見、要望等をお聞きしたい。

委員

- ・ 通勤時に狭い道路など子どもたちにとって危ないところはまだあり、逆走している車もいる。
- ・ 一方通行の道で進入禁止のところを歩いていくというのがまだある。
- ・ 通勤時間帯に子どもたちも同時に学校に出るので、企業と連携して通勤時間をずらす等、検討が必要ではないか。
- ・ 一方通行でも時間帯規制のあることをわかっていない人が近道しようとして通る。
- ・ 一旦停止のラインを越えて出てくる方、特に年配の方が多い。
- ・ 長野では子どもたちに横断歩道では手を挙げ、止まってくれた車にお辞儀をするという教育を徹底している。富山でもそういった取組みが必要なのではないかと思う。横断歩道では車が止まるのが当たり前だと思ってしまうが、意思表示していくことも大事である。

部会長

- ・ 富山では車中心で、横断歩道で車が止まらない点では、全国でもワースト4位ということで、不名誉な状況なため、市民意識の向上は非常に重要。
- ・ 子どもの頃からの交通安全教育は重要で、そういった取組みをしている自治体で成果も出ているが、子どもたちへの交通安全教育を通じて親御さんも交通安全について意識するといった教育の仕組みが必要。
- ・ 道路のわかりやすいサイン表示等についても重要と思うが、事務局から何かあるか。

事務局

- ・ 横断歩道の一時停止については、富山市特別副市長の柴田理恵さんが出演するCMで大々的にキャンペーンを行い、啓発活動を行っている。
- ・ 大津市で散歩中の園児に車が突っ込んだ事件や、他県で下校途中の子どもに、酒気帯び運転のドライバーがトラックで突っ込むといった痛ましい事件が多発している。
- ・ そのため通学路の点検については、警察、学校、道路管理者が三者一体となって毎年行っており、危険箇所へのガードレール新設、スクールゾーンやタイムゾーンの設定などを進めている。

部会長

- ・ 高齢者ドライバーの問題等、いろいろな社会問題が起きているので、引き続き力をいれていただきたい。

委員

- ・ コンパクトなまちづくりについては成功したように見えるが、中山間地域が置き去りになっていて、どんどん不便になっていると住んでいる人は思っている。
- ・ 南北接続もしたが、立山山麓に住む人間にしたら何のメリットもない。
- ・ 上滝線へのLRT 乗り入れの社会実験についても、技術的に難しいとの見解が（新聞等で）出ており、中心部だけが良くなる施策ではないかと、山間部の人間は思ってしまう。
- ・ 中山間地に住む人も潤いが感じられ、幸せが感じられる富山市にしていきたいと思う。
- ・ 大山地域では高齢化率が60%近くになっているが、それでも住み慣れた地域で暮らしたいと思っているわけだが、家の周りの家庭菜園をサル、イノシシに荒らされ、中山間地での生活の魅力が失われていっている。
- ・ 有害鳥獣対策について総合計画の中で明確に打ち出して、山に住んで幸せだと思えるものにしてほしい。

事務局

- ・ P118、119に中山間地域の振興について書いてあるが、主に農林分野のこと（水田貯留や夏季湛水）しか書いておらず、委員が言われる中山間地域のにぎわいづくり、住みよさ及び潤いの創出といったことについて、ここに加えることを考えなければならないと感じている。
- ・ 鳥獣対策についてはP117にも記載があるが、イノシシやクマによる人身被害や農作物被害を防止するため、檻の設置や猟友会と連携したパトロール等を、これまで以上に充実を図っていききたいと考えている。

部会長

- ・ 中山間地域の問題は、単に環境面だけでなく、住んでいる方の高齢化が進み、運転ができなくなり銀行等へ行けないといったように、様々な問題を複合的にはらんでいる。
- ・ 中心市街地だけではなく、中山間地域の方の暮らしについても、市民平等に幸せを感じられるような政策が必要か議論を深め、計画の中にぜひ盛り込んでほしい。
- ・ 森林の話が出たが、昨今のいろいろな情報ネットワークの技術を用いて、より効率的で正確に、そして将来見通しも含めた管理の仕方を整備していくとよいのではないかと思う。
- ・ 富山市ではセンサーネットワークもあるし、そういったものを活用しながら、森林管理を効率的にしていく、あるいは、そういった情報をGIS位置情報システムの中に落とし込みながら、少ない人数で広い森林を管理しなければならない問題を克服していくことが重要である。

事務局

- ・ P116に記載してあるが、新たな森林管理システムの構築ということで、これまで手作業で行っていた業務を、航空レーザー等のデータを活用しながら効率的に管理する仕組みが始まったため、今後はそれを活用し管理の集約化を図りながら適切に管理していきたい。

委員

- ・ せっかくお金をかけて整備した林道も5、6年経つと荒れ果てた状態になってしまっているため、

春先に道にせり出した枝を全部切ったり、がけ崩れ対策したりする必要がある。

- ・ 森林組合が協力もできるので、官民一体となって森林管理をする必要がある。
- ・ 水と緑の森づくり税を集めたりもしているので、そういったものや、先ほど話に上がった情報機器等を活用しながら管理していくことをお願いしたい。

委員

- ・ 森林ボランティアについて、目標とする指標を「人数」にしているが、「団体数」にしなければならないと思う。「人数」だけにすると、同じ人が何回もボランティア活動をするので、裾野が広がらない。幅広い年代層で団体を作ってもらい、かつ、既存団体の人数も増やしていくというように、複層的に行わないと、人も高齢化等により減っていきなり減る。以前の指標（団体数）と「人数」の二本立てにしてはどうか。
- ・ 循環型社会について、2001年にエコタウンができ、当時は一生懸命やっていたが、ある時大きな窯ができて、汚いプラスチックは燃やしてもいいとなり、その後また、やっぱり分別しようということになっているので、一回立てた政策も思い出ししながら、市民にその点を説明しながら啓蒙活動をしてほしい。
- ・ 環境教育をするというより、市民の義務、役割であるということを知っていただけるようにきめ細かくやっていただけたらと思う。

部会長

- ・ 環境の問題についても非常に重要で、富山市は環境政策についても、環境モデル都市、環境未来都市、SDGs 未来都市として全国自治体の中でトップランナーであるので、公共交通同様にそのポジションを維持していただきたい。
- ・ 時代も変わり、新たな取組みが必要で、エネルギーマネジメントシステムや電気の需要と供給の問題、リサイクル問題等、論点は多々あるが、どんどん前に進めてほしい。
- ・ 景観の問題、景観まちづくりについても富山市にとっては重要なものである。
- ・ 自然景観に恵まれているが、人工景観、都市景観を美しく整備することが、都市のブランド力向上や人々の住みよさにつながっていくので、公共交通を軸としたコンパクトシティ政策とあわせて、潤いのある環境づくりを進めてほしい。

委員

- ・ 時間もないので、次回に回答いただければよいが、本部会で扱うテーマは非常に幅広く、災害や雪に強いまちづくり、景観等あるが、これらは富山市単独では解決が難しいと考える。
- ・ 知事が変わり、「ワンチームとやま」が売りになっているわけなので、周辺市町村及び県との連携、協働の現状、または今後の展望について次回教えていただきたい。

意見票や第2回部会について説明し終了

以上